

# バイオマス発電所が竣工

## 東北最大級、出力2万キロワットの能力

### ユナイテッドリニューアブルエナジー

ユナイテッド計画などが設立したユナイテッドリニューアブルエナジー(秋田市)の木質バイオマス発電所が完成、15日に竣工式を行って本格稼働を開始した。循環流動層ボイラーによる蒸気タービン発電を行う発電所で、出力2万キロワットと東北最大級の能力となっている。燃料には秋田県産未利用材を約7割使用し、残り3割はPKS(パームヤシ殻)を使用する。県内各地域の木材生産事業者(兼林業者)とのチップ供給により、県内全域から木質チップを供給するネットワークを構築している。地元の森林から生まれる「秋田産電力」を提供することも、秋田県林業の活性化、地域との新領域創造に取り組んでいく考えだ。



あいさつする  
平野社長

竣工式、施設見学後、夕方に行った竣工パーティーには佐竹敬久秋田県知事、穂積志秋田市長をはじめ約440人が出席した。冒頭あいさつに立った平野久貴社長は、「当初チップが本当に集まるか不安を感じていたが、今は秋田県林業関係者の皆様のパワーに圧倒されている。日々400トンのチップが安定的に供給されている。この林業関係の方々の出力2万キロワットで、発電



木質バイオマス発電所の外観



ロータリーキルン式の乾燥設備を導入

量は一般家庭の約4万世帯分に相当する。2600キロワットを所内電力として使用し、残り1万7400キロワットを新電力や東北電力に売電する。事業費は125億円。ユナイテッド計画のほかフォレストエナジー、レノバ、グリーンファイナンス推進機構が出資している。燃料となる木質チップは、県内各地域の最大手木材生産事業者(兼林業者)とチップ供給契約を

締結して、県内全域から調達する。ユナイテッドリニューアブルエナジー・プラント運営保全グループ長の三好創氏は、「県内全域からチップを供給するネットワークを確立したバイオマス発電事業は全国でもほとんど例がないだろう」と語る。燃料は原木のままでは受け入れず、チップ化されたもののみを受け入れている。これは、「木材生産事業者も責任と役割を明確にする」狙いがある。

また、ロータリーキルン式の乾燥設備を導入しているのも特徴となっている。含水率50%前後で搬入されたチップを乾燥設備で35%程度にまで乾燥させ、燃料に適した状態にして使用する。発電所稼働に伴い25人を新規採用(7月1日現在の従業員数は29人)した。これに加えて素材の確保、チップ工場の作業、物流など多くの雇用機会が生まれている。さらには施設見学と観光を合わせたツアーも検討するなど、「秋田産電力」の提供を通じてさまざまな面で秋田の活性化に貢献していくことを目指している。